

名大初、勝沼精藏総長の文化勲章受章

このたび、岡崎恒子、森重文両特別教授が文化勲章を受章しました。文化勲章は、1937（昭和12）年に創設された、「文化ノ発達ニ関シ勲績卓絶ナル者」（文化勲章令）に与えられる国内最高の栄典の一つです。これまでも多くの名大関係者が受章してきましたが、初の受章者は54年の勝沼精藏（1886 - 1963）です。総長在任中の受章で、同時に文化功労者にも選ばれました。

勝沼総長は東京帝国大学医学部出身で、1919（大正8）年に愛知県立医学専門学校教授に就任して以来、59年に名大総長を退任するまで、一貫して名大の前身学校及び名大に在籍しました。専門は内科学で、特に日本の血液学の創始者として知られています。26年には、39歳の若さで帝国学士院賞（現日本学士院賞）を受賞しました。37年には日本血液学会を設立し、60年にはこの年の国際血液学会議長に就任しています。日本の神経病学の発展大成にも大きな足跡を残し、そのほかにも循環器病学

や航空医学、老年病学など、幅広く活躍しました。

学内では、医学部附属医院長を長く務めたほか、49年7月から59年7月まで10年間、総長として名大を率いました。63年に亡くなった際には、文部大臣、日本学士院長、日本医師会長、NHK会長等の来席の下、豊田講堂で告別追悼式が行われ、約2,000人が参列しました。その声望の一端がうかがわれます。

この年の文化勲章は、勝沼総長のほかに、高浜清（虚子、俳句）、金田一京助（アイヌ文学、言語学）、鎗木健一（清方、日本画）、萩原雄祐（天文学）が受章しています。11月3日には、午前11時から皇居で授章式が挙行されました。新聞報道によると、勝沼総長は昭和天皇同席の中で緒方竹虎副総理（首相代理）から勲章を授与されたのち報道機関による撮影、正午から天皇招待のお茶の会と昼食会に出席して、研究の苦心談を披露したとのことでした。



- 1 朝日新聞（名古屋版）1954年10月14日付朝刊の記事。「勝沼学長」とあるが、名大ではちょうどこの日の評議会で、学長を総長と適宜通称することを決定した。
- 2 文化勲章受章時の勝沼総長。
- 3 文化勲章受章者5人の写真（1954年11月3日、後列右が勝沼総長）。
- 4 1954年当時の東山キャンパス。もっともこの時は、理学部と環境医学研究所、工学部の一部があるだけで、大学本部もここにはなかった。

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



With コロナでのキャンパスライフ応援事業（基金）ご支援のお願い

名古屋大学では「新たな生活様式」を取り入れ、安心・安全に充実した学生生活を送れるよう、「With コロナでのキャンパスライフ応援プラン」を実施します。学修環境や課外活動への対策に加え、一人ひとりの悩みに寄り添う学生支援などを進めてまいります。コロナ禍においても挑戦する姿勢を育み続けるため、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>



ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>